

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三原市立南小学校	校長	新庄 直子	担当者名	森林 竜也
-----	----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『ペア学年で協力して競い合う，南小文武不岐クラスマッチの取組』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

主体性・コミュニケーション力

取組のねらい

5・6年生のペアで活動することにより，学級やペア集団への所属感を持たせるとともに，多様な活動設定により，自ら役割を見つけ主体的に活動し，自己有用感を持たせる。

取組の具体的内容

- クラスマッチ実行委員会の設置
 - ・各学級の代表者による実行委員会を設置する。
- 実行委員による各学級の意見集約
 - ・実行委員は各学級の意見集約，実行委員会での審議事項の報告をおこなう。
- 種目・配点等の決定
 - ・「文」（学習に関する種目）「武」（運動に関する種目），応援態度の三観点で配点を行い，児童の自発的・主体的な活動を促す。
- ペア学級・各学級での取組目標の設定
 - ・ペア学級での目標設定（6年生主導）
 - ・学級での目標設定（実行委員主導）
- 自主的な取組
 - ・休憩時間の練習（異学年での声かけ）
 - ・学習の教え合い
 - ・応援グッズ作成，応援練習
- クラスマッチ本番
 - ・「武」2種目及び応援 代表リレー
 - ・半数の児童が競技中，半数の児童は応援をする。
- 振り返り・次回に向けて
 - ・各学級で集団づくりについて学んだことを振り返る。



取組の創意工夫

- 実行委員会制度を取り入れることで，児童主体の活動とするとともに，役割の中で児童のリーダー性を育てる。
- 応援・態度の項目を設けることにより，グッズ作成や応援団など，児童が多様な役割を設定できるようにする。
- 5・6年一学級ずつをペアにすることで，6年生には最高学年の自覚を促し，5年生は6年生の姿から学べるようにする。
- 「文」の分野を先行して実施することで，「武」についての達成目標と練習計画を主体的に改善できるようにする。
- 実行委員に会の進行や審判等，当日必要な役割の教職員への依頼などを任せ，主体的に行動できる場をつくる。
- ペア集会・学級会を活用して学びを振り返り，第2回への動機づけを行う。

取組の成果と課題

- Hyper-QU 学級満足群の割合 5年 32%⇒39% 6年 50%⇒56%
- 活動を通して多様な活躍の場を児童が自ら見出すことで，学級及びペア学級で団結して取り組むことにより，自己有用感や所属感を高めることができた。
- カリキュラム・マネジメントの視点で，他の学習とより効果的に関連させる必要がある。